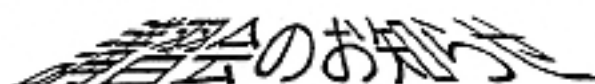


緑の相談所だより

—第56号—

冬～初春号 1999. 2. 1発行

編集：(財)旭川市公園緑地協会
旭川市緑の相談所



月日	期	テーマ	講師	定員
2月14日(日)	午後1時半↓午後3時半	果樹・庭木の剪定、防除	旭川市緑の相談所 相談員 佐野 元雄	50名
2月28日(日)		洋らん春・夏の管理	旭川らん友会 会長 笠原 幸三	50名
3月14日(日)		鉢花の植え替えと管理	旭川市緑の相談所 相談員 佐野 元雄	50名
3月28日(日)		鉢植え花木・盆栽の 植え替えと管理	旭川市緑の相談所 相談員 本郷 仁	50名

いずれも 参加料は無料

お申し込み・お問い合わせは旭川市緑の相談所へ ☎65-5553

おもしろい木の話

カツラ



カツラの話は古い時代からあり、『古事記』では香木と表現されている。東北地方ではこれをコウノキ(香の木)と呼ぶという。夏から秋にカツラの葉を採集して乾かし、これを粉にして抹香を作るためといわれる。

また、カツラの葉は青いままでにはにおわないが、秋に黄色くなって落葉するころにはよくにおう。このにおいが醤油のにおいに似ていることから「ショウユノキ」「ショウユギ」「ミソノキ」などと呼ぶ地方がある。

春の新芽時期には全体が紅色に染まっているように見えなかなか趣がある。材は均質で加工性がよく、狂いが少ない。天然化粧合板、内部造作、家具、彫刻などに用いられる。カツラの蒔絵は長時間打っても肩が疲れないといい、北海道産の蒔絵、将棋盤の多くはカツラでつくられる。

また、アイヌ民族にとって丸木舟を作る大事な木であった。

ながまをふやすためのくふう

タネのちり方

動物などにくっついてちる



むげりつくもの

ノブキ



はじけてとぶもの

ホウセンカ



スミレ



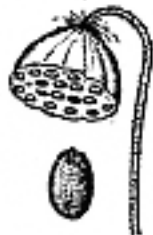
カクバミ



水に流されてちるもの



ハス



風によかれてとぶもの

タンポポ



ススキ



葉が変化したもの

チューリップ



グッチアイリス



ユリ



根が変化したもの

ゲリア



くきが変化したもの

グラジオラス



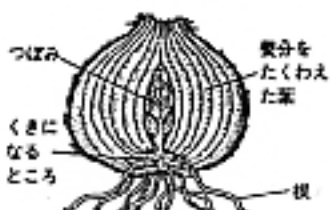
フリージア



クロッカス



ヒヤシンスの球根の断面



球根のいろいろ

地下茎が変化したもの

カンナ



カラ



シクラメン





今、人間を含めた動物のクローン繁殖～クローン牛、クローン豚等、コピー動物のことが種々の問題を提起しながら話題になっておりますが、有用で優秀な親の形質をそのまま受け継いだ子を確実に効率よく繁殖させることは、関係の研究者にとっては達成まじかな夢でもありました。

動物でも植物でも、両親とまるきり同じ子供はできないということが自然界の原理であり、このため動植物の品種改良とできた品種の形質をそのまま保存することに長い時間と苦勞があったわけです。これが試験管の中で人間が容易に人工的に操作できる時代が近付いてきました。

しかしこの「クローン」繁殖も植物界では古い時代から行なわれてきた方法で、お馴染みの挿し木、取り木、接木、株分け、球根などの種子による以外の繁殖、増殖法（無性繁殖）がこれにあたり、研究者でなくとも植物をお好きな方であれば何度かは試みられ、名人の域にある方々も大勢おられます。

経験することですが、種子繁殖の場合は話題になった草花、野菜、果実等から種子を取り、これを播いても親に近いものはありますが、同じものがでてくることは滅多にありません。種子屋さんはいつも同じ種類が育つ種子を生産しておりますが、これは優秀な両親を大事に秘密裏に保存しておき、これを育て交配してできた形質のよく似た種子に品種名をつけ販売し、営業をしているわけです。買った草花などの種子を播き苗を育てた中に時々様子が変わったものが混じることがあります。滅多にないことですが「クローン」でないので有り得ることです。

また色々な品種名のついたバラや果樹等の苗木がありますが、いずれも同じ品種であれば間違いなく同じ花や実をつけます。これは1本の優秀な親の体の一部（芽、新梢等）を切り取り、接木や挿し木で増やしたもので「クローン」繁殖のひとつの方法といえます。（もし枝の一部に変わりものがでた場合は突然変異、枝変わりのため、この枝を接木等で育て新品種として楽しむことができます。）

これを更に精密に大量にできるようにしたのが「バイオ」と呼ばれている技術です。「バイオ」の応用は種々ありますが、この「クローン」繁殖に最も多く利用されています。要は親の植物体を細かく刻み、その一片一片を試験管の中で1個の植物に育て上げることで親とまったく同じ子が多数生まれます。

動物と植物では原理は同じですが、技術的な難しさがあり植物の方が先に実用化されました。

例えば以前の洋ランの繁殖は難しいことでした。種子から育てると開花まで数年以上かかり、その時までどのような花が咲くかわからず、親と同じ花が咲く保証はなく、また株分けも効率が極めて悪く、ランの苗は結構高価なものでした。今では優秀な1株の親から「クローン」繁殖により親と同じ株が短期間で多数つくられることになり、苗も簡単に手に入るようになりました。

色も形も完全に同じ花を揃えて増やし育てることも楽しみ方です。手軽にできる「クローン」繁殖、挿し木、接木の季節が近付いてきました、挑戦してはいかがでしょうか。

二月の園芸作業

◇露地花壇

花壇の設計やコンテナ、プランターなどの設計を済ませておきましょう。

◇鉢花

全般的には1月と同じ管理ですが、日差しが強くなってくるので窓際の鉢物の葉に日焼けの心配がでできます。小温室やハウスでは日除けや換気が必要になります。

シクラメンは咲き終わった花の花梗を取り除き、追肥をして光に当ててやるとまだまだ咲き続けます。

プリムラ、シネリリアなどの鉢物も出回ります。よく光に当てながら涼しい環境に置き10日に一度は液肥をあたえてやります。

無理して時期外れの花を咲かせた室内の花木類は、花が終わったら新芽の動かないうちに寒い場所に移して春を待ちましょう。寒さに遭わせていたクンシランは涼しい部屋か玄関のようなどころへ移し2-3週間管理し、徐々に部屋の中へ移動します。

◇観葉植物

鉢花と同じように、中～下旬は強い光で日焼けが心配です。特に部屋の日の当たらないところに置かれていた鉢は注意が肝要です。1月の管理に準じます。

◇洋蘭

来月にかけて冬咲き種、品種の開花最盛期に入ります。日差しが強いときは窓ガラス越しの光線では強すぎる様になります。レースのカーテン越し程度の光線が適度です。

ファレノプシス、パフィオペデルムでは空気中の湿度を保つこと。夜間の湿度が低くなりすぎないよう最低湿度の維持に注意します。

開花期間の長いシンビジウムやパフィオペデルム等は極端な水切れは禁物。カトレアの二重シースは外側のシースを裂いてやると良い。バルブ伸長中の株は10日に1回位、2,000倍の液肥を追肥する。

◇盆栽

室内での鑑賞は先月と同じ注意が必要ですが、次第に樹木の根の活動が活発になってくるので、室内での鑑賞は上旬くらいで取り止めた方が安全です。

ム口の中は2週間に一度は覗いて乾きに注意する。

◇庭木果樹

枝に積もった雪落とし。下旬になると、カエデ、シラカバ、ニレなど春早くに活動を始める樹種を除いた庭木とブドウ以外の果樹の剪定適期。不要な枝の一部を残したままにするのはいけない。直径1cm以上の枝を切った場合は、傷口を閉りなおして癒合剤を塗ります。

… ☆ … ☆ … ☆ … ☆ … ☆ …

三月の園芸作業

◇露地花壇

雪解けが進むと下旬には土が凍を出します。冬の間に考えていた花壇のデザインに合わせて春播き草花の種を選んだり、温

度が保てればテランセラなどの挿し芽も始めます。庭の花畑に木灰や融雪剤等を撒いて雪を早く融かす方法は感心させせん。花畑は自然に雪が融けて、徐々に春を迎えることが出来るようにするのが一番です。

◇鉢花

窓から射し込む日の光も強くなり、日中は暖房が要らなくなる日もあります。小温室では温度が急に上昇するので換気はこまめに。新芽が伸び始めますが、光線不足の所で徒長したり、冬の間に姿が崩れたりしているものは花芽が付かなかったりするので、切り返しをして新しい芽を伸ばします。ゼラニウム、ペコニア等の草物やハイビスカス、ブーゲンビリア等の花木類に有効です。

灌水の回数も多くなってきますが、午前中に乾いた鉢にたっぷりやって後は乾いたらやるという鉄則を守ります。部屋の温度が日中20℃以上、夜間15℃以上あれば株分け、植え替えができます。冬囲いで外の土穴に入れてあるものは、雪融水が溜まることがあるので注意。蕾が上がる頃のクンシランは、室温の急激な上昇と鉢内の乾燥に注意します。

◇観葉植物

次第に環境が良くなってきます。日焼けしない程度で強い日光に当てながら丈夫に育てます。鉢花と同じ条件で株分け、植え替えができますが、不安な場合は5月になってから行います。下旬になったら追肥をします。

◇洋蘭

冬咲き種も次第に花の盛りが過ぎてきます。花を早めに摘んで株を弱らせないように、特にシンビジウムは早に花梗を切り取って新芽の活発な成長を促さないと来年の花は期待できません。室温が最低13℃以上あれば花の来なかった株、花の終わった株で株分けや植え替えが出来るが新しい芽が成長を始めた頃が適期。株分けの条件が悪いときには、鉢の中で茎に鉄を入れておきます。

この場合バルブが最低3個以上ついていることが条件です。暖かい日中には外気を入れてやりながら、日焼けをさせないように注意します。

◇盆栽

秋に用意のしてあった用土、鉢などの点検をします。下旬には落葉樹類の植え替えができます。ム口の湿度が高いと温度に敏感な種類は芽吹きをするので要注意です。落葉樹の針金かけは中旬から来月の中旬迄に終わらせます。土の中に冬囲いをした鉢は、天気の良い日中覆いを少しすかしてやりますが、穴から出すのは曇り雨で風のない日が適当です。

◇庭木果樹

日中暖かく、夜冷えることが繰り返されて堅雪になり、庭木の枝が圧されて折れる心配があります。表面の固い雪は早めに砕き取り除いてやります。暖かい日中、真巻きをしてある木は上をすかして風を入れます。風の強い日や、天気の良い日に一気に覆外しをすることは避けず、果樹を含めて落葉樹の大がかりな整枝、剪定は上旬には終わらせると良い。病害虫の予防的措置で石灰硫黄合剤の散布は今月中に終わらせる。